

## 「超」勉強力

～全教科・科目で言語能力を鍛えよう～

【「超」勉強力】という本があります。脳科学者の中野信子さんと法学者・ニューヨーク州弁護士の山口真由さんの共著です。ちなみにお二人とも東大卒です。2020年5月26日の第1刷を当時買いましたが、いつものように積読(つんどく)で読まずに積んでおきましたが、ようやく読みました。当時、立ち読みして「そうそう」と頷いて買った本ですので、読めば皆さんに伝えたい内容が満載、その内容を少しご紹介します。

まず、中野信子さん、《【国語力＝言語の運用能力＝考える力】＝コミュニケーション能力》だと。コミュニケーション能力が【】の能力であるというご説明、私の考えるところと全く同じですが、コミュニケーション能力をこのように説明される方は多くはありません。教育や資質・能力を語るとき、必ずと言っていいほど出てくるコミュニケーション能力。コミュニケーションスキルと一体であり、非言語コミュニケーションというのもあるわけですから、《【】》のように言い切るご説明は珍しいわけですが、いつの間にかコミュニケーション能力の中心に【】があることが忘れられ、「人柄」的なものがコミュニケーション能力の中心に座っているように感じます。コミュニケーション能力という言葉にそうした危うさを感じる私は、今までコミュニケーション能力という言葉に極力使わずに、【】のような言葉を使い続けてきました。そのことは、シンフォニーのバックナンバーを読めばお分かりいただけるはずです。《コミュニケーション能力＝【】》となれば、論理的思考能力も＝ということになります。中野さんは、「人の心を動かすのは人柄ではなく言語の運用能力です」と言い切ります。一般的にコミュニケーション能力と言われている「自分の考えを述べる力、問題を正しく読み取る力、相手の意図を読み取る力」、すべて【言語の運用能力】だと言い切ります。

さらに中野さん。短期記憶と長期記憶について語ります。長期記憶の中には言葉による陳述記憶、言葉によらない非陳述記憶(体で覚えた忘れにくい記憶)があります。陳述記憶の中には忘れやすい「意味記憶」と忘れにくい「エピソード記憶」があります。エピソード記憶とは、「自分ごと」化した記憶のことです。自分の「頭のなか」で有機的に構築された記憶がエピソード記憶です。自然な記憶です。ちなみに、私は、仕事上の記憶力が極めて高く、教科・科目に係る記憶はほぼ残っていません。私がいかに仕事を「自分ごと」化し、教科・科目を「自分ごと」化できなかったかということ。 「好きこそ物の上手なれ」ということです。「自分ごと」化とは、教科・科目の内容を自分の何かにこじつけることではありません。教科・科目の内容(エピソード)を読んで理解することです。読んで理解する。エピソード記憶とは、覚えようとするのではなく、読んで理解し、結果として覚えている。忘れない。「読んで理解する力」「読解力」即ち「言語能力」です。

次に山口真由さん。「教科書でも参考書でも、理科でも数学でも、すべてストーリーとして読む＝ストーリーとして覚える＝ストーリーとして理解する」ということです。私はこれを「読んでストーリーとして理解し、結果として覚えている。覚えようとはしない。読んでストーリーとして理解する。」と解しました。知らないことを知

ることが理解ではない。知らないことは理解できない。知ったうえで、理解に到達するか否か。「ストーリーとして理解する能力」「読んで理解する能力」即ち「読解力」です。さらに、《人の動きに目を配り、適切に対応する能力＝コミュニケーション能力》即ち《読解力》だと続きます。読解力を軸に二つに分ければ、《人の動きに目を配り、適切に対応する能力＝読解力》であり、《コミュニケーション能力＝読解力》だということです。全部つなげれば、《人の動きに目を配り、適切に対応する能力＝コミュニケーション能力＝読解力》ということになります。

中野さんのエピソード記憶と山口さんのストーリーは同じですね。前者は脳科学であり、後者は実体験です。そして、その正体は「読解力」なわけですが。コミュニケーション能力も然り、コミュニケーション能力の正体はお二人とも「言語能力とりわけ読解力」でした。

山口さんは、《国語力＝インプットのための「読解力」＋アウトプットのための「表現力」＝すべての勉強の基本》としたうえで、こう続けます。「国語力を上げる～方法は～「ていねいに読む。」コツは本当にこれだけです。国語力が低い人は、自分でも気づかないうちに文章を読み飛ばしていたり、自分の思い込みで意味を補ったりしてしまい～離れていくことがとても多いのです。」国語教師・布川（第9号参照）も同感です。私の当時の口癖は、「それはどこに書いてあるの？（どこにも書いてないですよ。）」「ここにこう書いてあるよ。（書いてあることに忠実にね。）」急いで何回も読むよりも、ゆっくり丁寧に1回読むことです。（※）山口さんに戻ります。「学びに積極的な体質になるには、小さな疑問を放っておかないこと」、これって中野さんの「自分ごと」化ですよ。（私にとって「仕事」は「自分ごと」。小さな疑問を放置しません。「勉強」では放置しました。）

おまけに河村有希絵さん（この方も東大卒）の『構造を読み解く力』から。【言語は思考】【文章を「構造」という観点で分析する】【「相手の立場や気持ちを読む」ということも「読解」】【思考の繰り返しが訓練となって、人の気持ちや立場を考える癖がついていく】としたうえで、構造読解力（＝読解力）のメリットを5点あげます。

- ① メールや文書の要点抽出の仕方がわかり、素早く理解できる。
- ② 会議参加者や会話相手の発言意図を考える癖がつく
- ③ わかりやすいメモや報告書が書ける
- ④ ロジカルでストーリーのあるプレゼンが組み立てられる
- ⑤ ミーティングや面接で聞かれたことに的確に答えられる

中野さん、山口さんの【コミュニケーション能力】【エピソード＝ストーリー】と同じです。そして、河村さんも「コミュニケーション能力」という表現は使いません。

さあ、皆さん、全教科・科目で言語能力を鍛えてください。

※ しかし、山口さんは7回読みます。1～3回目は（表意文字である）漢字を拾いながら、流し読み。4回目はキーワード等に注目しながらふつうのスピードで。5回目は要旨を考えながらふつうのスピードで。6回目は細部に目を向けながらふつうのスピードで。7回目は書かれているはずのことを想起しながら、答え合わせのような感覚でふつうのスピードで。

.....

3年生の皆さん、強い気持ちで第一志望を貫徹してください。強い気持ちで意図的な学習を積み上げてください。受験勉強とは意図的なものです。できない自分から逃げれば、意図的ではない漫然とした学習もどきになります。私がそうでした。皆さんは、自分を信じてください。それが「自信」です。自信を持って、意図的に第一志望に向かってください。「大丈夫、自分を信じて、必ずうまく行く」。